

個々の問題の出題の意図及びその正答率

理科 小学校 第6学年

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率
	大問	小問	通番		科学的な思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解	
A 生物とその環境	1	1	1	気体検知管の正しい目盛りの読み方が身に付いている。				91.4
		2	2	すう空気、はき出した空気の酸素や二酸化炭素の割合の変化について、実験結果から読み取ることができる。				83.7
		3	3	実験結果から、はき出した空気に含まれているものについて考えることができる。				23.7
		4	4	酸素用気体検知管は発熱するので、ゴムのカバーの部分を持つようにすることが身に付いている。				74.3
	2	1	5	だ液ででんぷんが消化される条件を明らかにするための実験操作ができる。				66.0
		2	6	でんぷんがあるかないかを、ヨウ素液で確かめるとどのような結果が得られるかわかっている。				59.7
		3	7	実験結果からだ液のはたらきについて考え、説明することができる。				53.0
		4	8	口からこう門までの食べ物の通り道を、消化管ということを知っている。				35.8
	3	1	9	光を当てた葉にでんぷんができていないかどうかを比較して実験する方法が身に付いている。				76.0
		2	10	アルコールの性質を利用して葉を脱色する操作ができる。				87.2
		3	11	でんぷんができていない葉、できていない葉をヨウ素液につけたときの結果がわかっている。				67.8
		4	12	葉に光を当てたときと当てないときの実験結果から、葉に光が当たるとでんぷんができることを説明することができる。				82.0
	4		13	動物が空気中から酸素を取り入れていることを知っている。				91.9
			14	動物が空気中に二酸化炭素を出していることを知っている。				91.5
			15	動物も植物も水を取り入れていることを知っている。				87.4
			16	動物は養分をつくることはできないが、植物は養分をつくることを知っている。				89.7
B 物質とエネルギー	5	1	17	目的に応じて、条件を統一した実験を行うことができる。				68.2
		2	18	ろうそくが燃え続けるわけを、びんに入出入りする空気の動きとつなげて考えることができる。				63.5
		3	19	ランプが燃え続けるための構造を、実験からわかったことをもとに説明することができる。				70.3
		4	20	気体検知管が示した結果をまとめた表をもとに、酸素や二酸化炭素の割合の変化について説明することができる。				77.2
C 地球と宇宙	1	21	がけに見られるしまもようを地層ということを知っている。				89.3	
		2	22	がけでみられた地層と、実験の結果をつなげて考えることができる。				80.3
	6	3	23	がけの地層やボーリング試料の観察をもとに、地層の広がりについて考えることができる。				89.9
		4	24	まるみをおびた石が、水のはたらきでできたことを知っている。				93.2
		5	25	地層の中の葉や貝の形をしたものを化石ということを知っている。				97.0